

私たちの町の文化財

■第6話 下馬神社の庚申塔（こうしんとう）

西区横手の下馬神社には、熊本市内では珍しい「庚申」と刻まれた石碑があります。「青面金剛」と刻んだり、「庚申」と刻んだ塔のことを庚申塔と呼ぶのですが、この類の塔は、江戸時代に全国各地で多く建てられました。しかし熊本市内では珍しく、現在14例しか知られていません。しかも庚申塔が存在するエリアは市内でも限られていて、エリアごとに違った特徴をもつのがこの塔の面白いところです。横手・二本木周辺には現在4つの庚申塔が知られていますが、いずれも「庚申」または「庚申尊」と刻むのが特徴です。庚申塔を建てる目的は、庚申信仰に由来します。古くは平安時代からみられる信仰ですが、江戸時代に一大ブームとなります。六十日に一度訪れる庚申（かのえさる）の夜は、人の体内にいる三尸（さんし）が身体を抜けて天に昇り、天帝に罪禍を告げます。天帝はその報告に応じて、その人の寿命を縮めるといわれています。そのため人々は、集落内などで「講」と呼ばれるまとまりを作り、その夜は眠らずに過ごすことで、三尸が身体から抜け出ることを防ぎ、延命招福を祈念しました。実際に庚申塔の前に立ってみると、夜通し祈る人々の情景が目に見えます。

熊本市文化振興課 藤島 志考氏

自分の悪行を報告されて
寿命が縮まらないように、
徹夜することで寿命縮小
を防ごうとする、変わった
風習もあったんだな

